

ブラジル放射線学会総会（CBR25）参加報告

2025 年 9 月 30 日

学校法人聖路加国際大学
聖路加国際病院放射線科
部長 山城恒雄

この度は日本医学放射線学会のご推薦を賜り、ブラジル放射線学会総会（CBR25、ブラジル連邦共和国 パラナ州クリチバ市 UpExperience にて 2025 年 9 月 18 日から 20 日に開催）にて 2 回の教育講演の機会を頂戴しましたこと、厚く御礼申し上げます。

幸いにもご推薦を頂戴した後に、2025 年 3 月にウイーンにて開催されたヨーロッパ放射線学会総会（ECR）にてブラジル放射線学会 理事長 Prof. Rubens Chojniak 先生、今回の大会長（Scientific Director） Mauricio Zapparoli 先生、また国際交流担当（Director for International Affairs） Ronald Baroni 先生、また国際関連業務全般を取りまとめられた Ms. Natalia Marioto Siqueira さんと講演内容のご要望をいくつか頂戴でき、また日本医学放射線学会事務局のお力添えを得て、準備を進めることができました。

最終的には、1 つ目の講演として、腫瘍性疾患にまつわる国際企画で日本におけるセラノスティクスを一般画像診断医の視点で語ること、また 2 つ目の講演として、種々の胸部画像診断のセッションにて 4 次元呼吸ダイナミック CT について紹介すること、をブラジル側からご要望頂きました。

今回、カタル国ドーハ市経由でクリチバに至りました（9 月 16 日）。出発直前にある機器メーカーさんが私が CBR25 に参加することをお知りになり、何気なく「9 月 18 日に 2 回講演されるのですね」とのメールをもらい、実は CBR25 からのメールに書かれていた講演の日時が急遽変更されていたことを覚知できました（18 日と 20 日の 1 回ずつ、が 18 日に 2 回、に変更）。少々不安な心持ちで 17 日夕刻の International Welcome Party に向かいましたが、ECR で顔合わせが済んでいたおかげで、ブラジル放射線学会の先生方とは「ツネオ、よくクリチバまで来たな！フライトはどうだった？」と一気に打ち解けた雰囲気になり、明るい気分で当日を迎えることができました。

最終的に 9 月 18 日午前中に立て続けに 2 つの講演を行うことになりました。腫瘍性疾患にまつわる国際企画では、イタリア放射線学会より前理事長の Andrea Giovagnoni 先生、学会誌 La Radiologia Medica の編集長をおつとめの Antonio Barile 先生も演者で登壇され、イタリアでの PET-MRI の使い方、腫瘍性疾患に対しての Interventional Radiology のトピックスをそれぞれご講演されました（座長は Baroni 先生）。皮膚以外の悪性黒色腫の画像診断に関して素晴らしいご講演をなさったトロント大学放射線科の Claudia Ortega 先生と私を含め、フロアにいたブラジルの放射線科医の先生方とかなり多彩な、しかし飽きのないディスカッションを展開することができました。

2つ目の、種々の胸部画像診断のセッションでは（5 演題の中で私含め 2 演題のみ英語で講演、他の先生方は「スライドは英語、語りはポルトガル語」で進行）、座長の Marcel Koenigkam Santos 先生が巧みに時間配分を調整され、ブラジル放射線学会の胸部チームの先生方としっかりと意見交換させて頂きました。その中で「今晚、胸部チームは年に 1 回の食事会をするけど、ツネオも行かないか？」と呼んでいただくことになり、一人ではまず行くことはない郊外のレストランで食事をご一緒する機会を得ました。人種的背景が様々に異なる先生方（日系の先生も含め、全ての先生方が移民としてのルーツをお持ちです）が、私の質問に応えながら、「ブラジル人の定義と国籍の解釈、ブラジル国内での放射線学会の役割」等に関し多くご教示下さったことが印象に残りました。また、今回の訪問でおそらく一生の友人になるであろう、ペンシルバニア大学放射線科 Eduardo Jose Mortani Barbosa Jr. 先生と長くおしゃべりができたことも幸運でした。

9 月 19 日、20 日の 2 日間は機器展示ブースの見学も含め様々な角度から CBR25 に参加させて頂きました。国土の広さゆえ、遠隔医療が発展しているブラジルにおいて、グループ化された医療機関が中央指令室のようなコマンドセンターを設け、センターにいる診療放射線技師がコンソールを遠隔操作し、またセンター勤務の画像診断医による追加の撮影指示や即時の遠隔画像診断を見ることができ、日本との制度の違いに驚くこともありました。

7 年ぶりの再会になりましたが、サンパウロ大学放射線科教授 Cesar Higa Nomura 先生にもご挨拶ができました（比嘉、のお名前の通り沖縄にもルーツをお持ちの日系ブラジル人の先生です）。「今度はサンパウロで会おう」とおっしゃっていただいたことも今回のうれしい思い出になりました。

2025 年は日本とブラジルの国交が結ばれて 130 年の節目の年です。そのような特別な年に、CBR25 に参加でき、大変と有意義かつ貴重な経験をさせて頂きました。日伯の放射線学会の今後の友好親善に、微力ながら今後も参画したいと思う次第です。日本医学放射線学会の先生方、皆様方の引き続きのご指導をお願いして CBR25 参加のご報告といたします。今回のご推薦、誠にありがとうございました。



【9 月 18 日の 2 回の講演において、演者ならびに座長の先生方と】